

令和3年度博物館事業評価

戦略指標1 資料収集と保管・活用

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

資料4

定量的評価

No.	内容	単位	R3 目標値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	考え方・基準	R3内訳等説明
1	新規受入資料件数	件	20	49	38	27	当該年度の受入件数	考古3件・歴史15件・民俗9件
2	収蔵資料台帳のデジタル化件数(累計)	件	83,737	81,560	82,737	85,555	年度末におけるデジタル台帳の登録件数(中期目標:R7年度100,000件)	・舞阪郷土資料館分1,135点は委託 ※達成率で示す予定であったが、市内部の別の事業評価で、同じ項目を累計で示しているため、統一を図った。
3	【新規】 新規受入資料の展示公開率	%	70	-	-	31	当該年度とその前年度の受入資料件数のうち、展示公開した件数の比率	公開に向かない資料、調査や修繕を要する資料があるため、比率が低くなっている。
4	収蔵品オンライン検索システム「ある蔵」における公開件数(累計)	件	12,000	11,821	11,971	11,992	年度末時点における「ある蔵」での公開件数(中期目標:R7年度12,500件)	・掲載内容の充実を重視する中で、目標件数を満たすことができなかった。 ※達成率で示す予定であったが、市内部の別の事業評価で、同じ項目を累計で行っているため、統一を図った。
5	【新規】 館内収蔵庫の点検・清掃回数	件	12	-	-	12	温湿度等環境の点検及び庫内清掃の回数	温湿度の点検を月に1回行い、適宜除湿、放熱、清掃等を実施した。
6	資料事故発生件数	件	0	0	0	6	資料の紛失、破損、汚損等の件数	資料6点の所在不明が判明した。

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R1	R2	R3	判断基準	R3説明
1	計画的な資料収集が行われている。	必要	-	-	A	・資料収集方針・資料購入基準に基づいている。	・方針・基準に基づき収集した。
					B	・現状の収蔵環境を踏まえながら、収集検討会議により受入を決定している。	・検討会議は開催していたが、会議記録を作成していない。
					B	・資料購入評価会の構成員をあらかじめ想定し、すぐに対応できるようにしている。	・博物館協議会や文化財保護審議会経験者を想定していたが、案件がなかった。

2	資料の保管が確実になされ、良好な状態に保たれている。	必要	-	-	B	・資料管理のフローチャートが運用されている。	・概ねフローチャートに沿って行われた。
					B	・収蔵庫の鍵の管理や機械警備の運用が厳格に行われている。	・鍵は年度途中から施錠式キーボックスに収納し、使用時は他者の確認を必須とした。 ・機械警備は夜間全館、通常時は収蔵庫で行っている。
					D	・資料の収蔵場所を明確にするとともに、その場所への収蔵が確実にされている。	・資料6点の所在不明が判明した。 ・本来位置にない資料が多い。R3年度は使った資料を元の位置へ戻すことを徹底した。
					C	・全ての収蔵施設におけるデジタル台帳作成が計画的に行われている。	・未整備施設を順次進めている(R3舞阪)が、目標時期を定めた全体計画が未作成である。
					C	・収蔵庫の温湿度計測を常に行い、必要な措置を講じている。	・空調設備が無い。常時湿度を計測し必要に応じ一般の除湿機等で対応した。
3	全ての収蔵施設が計画的に運用されている。	必要	-	-	C	・全ての収蔵施設について毎年現地点検を行い、必要な措置を講じている。	・年間通じて一度も行けなかった施設が存在した。
					D	・全ての収蔵施設の資料を把握し、将来的な再配置の方針が検討されている。	・各施設の資料把握は途上であり、再配置の方針も具体化していない。
4	収蔵資料の活用と見直しを図られている。	必要	-	-	B	・デジタルデータの公開活用が推進されている。	・「ある蔵」や「文化遺産デジタルアーカイブ」で推進しているが、利便性に改善の余地有。
					C	・未整理資料や再整理を要する資料の活用に向けた確認・整理作業が推進されている。	・伊場遺跡群弥生時代資料の再整理などを進めたが、未着手のものが多い。
					A	・他館への資料貸出や画像提供、資料熟覧への対応が適切に行われている。	・適切に対応した。

自己評価

分析・課題 今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集については、収集方針・購入基準に沿って行われたが、収集検討会議が口頭で行われているため、後の時代に受入れ理由などが伝えられない。 ・資料の保管については、収蔵庫の飽和状態が進んでおり、本来の位置に配架されていない資料も多く、資料の所在不明も判明している。また、未調査資料や、収蔵経緯・履歴が不明な資料が存在する。なお、本館以外の収蔵施設は環境や保安の面で課題を抱えるが、遠隔地で資料の状況を頻繁に把握できない面がある。 ・資料の活用については、デジタル化推進や外部利用対応は進められているが、未整理資料・要再整理資料の整理や新着資料の公開はあまり進んでいない。
	<p>資料の収集については、限られた収蔵スペースの中で有効な収集を行うため、収集検討会議を強化して記録を残すこととし、系統立った所蔵資料の選定を行っていく。</p> <p>資料の管理については、収蔵庫内の再整理や資料点検を強化し、その結果をデジタル台帳や配架表に反映させる中で、資料情報の充実と集約を図る。また、市内に分散する収蔵施設についても定期的に巡回確認を行うことで適正な管理に努め、将来的には地域性に加えて資料の重要度や材質、劣化状況などによる収蔵資料の仕分けを全体的に行い、適切な物品管理体制を構築していく。</p> <p>資料の活用については、上記の収蔵庫再整理・資料点検を行う中で、所蔵資料の活用に向けた情報を収集し、オンラインでの公開などを推進していく。</p>

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	定性No.4	意見・評価
見直し(要or不要)					
評価(A~D)					

戦略指標2 調査研究

・学芸員の質の向上 ・地域の研究機関との共同研究 ・地域資料の掘り起こし

定量的評価

No.	内容	単位	R3 目標値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	考え方・基準	R3内訳等説明
1	【新規】学芸員が講演・講座等の講師を務めた件数(外部での実施を含む)	件	15	-	-	12	当館学芸員による講師件数。ギャラリートーク、学校対応、展示ガイドは含めない。出前講座は含む。連続講座は1回。	展示関連講座3件(縄文食、蜷塚WS、浜松城絵図)、連続講座3件(家康伝承調査・初歩の古文書、ボランティア養成)、出前講座6件
2	【新規】学芸員の学術的著述本数(外部での掲載を含む)	本	3	-	-	3	館報・図録・報告書や、外部研究誌等へ記名の著述掲載本数。連載は1本。1人1本目標。	学芸員A:1本(外部)、学芸員B:2本(館報)
3	【新規】学芸員が調査に向いた件数	件	15	-	-	24	外部での資料調査、熟覧、視察など。同一調査に複数回でも1件。	歴史19件、民俗4件、考古1件
4	【修正】他機関と連携した調査研究の件数	件	6	-	-	6	大学、機関、研究者等との調査研究連携件数。イベント等のみは含まない	静岡文芸大(染色型紙)、静岡大2(滝沢鍾乳洞・蜷塚遺跡)、根堅遺跡調査団、豊橋市自然史博物館(蜷塚遺跡)、大橋幡岩資料調査プロジェクト(大橋ピアノ)

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R1	R2	R3	判断基準	R3説明
1	市役所の組織の中で、博物館が調査研究施設として位置づけられている。	必要	-	-	C	・調査研究とその他業務における適切な業務量のバランス配分と役割分担がされている	調査研究のほか、資料収集管理・展示公開・教育普及・行政的な事務などを行っており、調査研究の比重は少ない。
2	調査研究の環境が保たれている。	必要	-	-	D	・調査研究に必要なスペースが確保され、機材が適切に配備されている	・館内に資料や物品が飽和状態で、調査研究できるスペースは少ない。 ・機材の一部に老朽化で使用できないものがある。
					C	・調査研究スペースにおいて整理・整頓が日常的に行われている。	・調査研究スペース確保のための整理・整頓の実施途上である。
					B	・調査、視察、研修、有識者指導など学芸員の資質向上に必要な予算が確保されている	・図書購入費や出張費等の予算はおおむね確保されている。

3	博物館が市民や外部の組織などから調査研究施設として位置付けられている。	必要	-	-	C	・設定されたテーマに基づいた調査研究が計画的に行われ、講座等で市民に還元している。	・「家康伝承」「蜷塚遺跡」「伊場遺跡群」など継続中の調査研究が多く、講座等での還元は主にR4以降の予定である。
			-	-	B	・学芸員が外部機関との共同研究に参画している	・「機械染色の型紙」は大学側と覚書を締結して進めている。

自己評価

分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸員が事務・調整的な業務等も抱え、物理的な調査研究スペースも少ない中で、調査研究活動への比重は低い。成果を示す場である講座や学術的著述はやや低調であったが、資料の現地調査は精力的に行った。 ・令和3年度は、「家康伝承調査事業」「蜷塚遺跡保存活用計画事業」「伊場遺跡群弥生時代資料再検討事業」や、静岡文化芸術大学との「浜松の染色の型紙」共同研究事業など継続中の調査研究事業が多く、それらの調査成果の公開は主に令和4年度以降になる予定である。 ・外部機関との共同研究は行われているが、資料や情報の提供が主体である。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・継続中の調査研究事業を引き続き推進していくとともに、外部との連携による調査研究について積極的に検討していく。 ・業務の分担や内容の見直し、調査研究スペースの環境改善を進め、学芸員業務の調査研究に対する比重を向上させる。その調査研究で得られた成果を展示や講座等によって市民へ還元する。 ・職員の専門性や使命感を高めるために研修等の積極的参加を促す。

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3		意見・評価
見直し(要or不要)				/	
評価(A~D)				/	

戦略指標3 展示・教育普及活動

・浜松市と関連のある展示の企画 ・学校や地域と連携した講座やイベントの開催

定量的評価

No.	内容	単位	R3 目標値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	考え方・基準	R3内訳等説明
1	年間観覧者数(本館)	人	43,000	32,540	24,032	29,311	本館合計(アウトリーチを除く)	新型コロナの影響から若干回復している。
2	年間観覧者数(分館合計)	人	28,000	27,248	18,108	21,762	5館合計	舞阪5212人、姫街道と銅鐸資料館4177人、浜北9,876人、春野1,129人、水窪1,369人
3	企画展開催件数	件	6	11	8	7	特別展、テーマ展、小展示が対象(スポット展示や外部での展示は含めない)	テーマ展3件、小展示4件
4	【新規】企画展の満足度	点	7.5	-	-	7.5	アンケートでの採点(0~10点)の平均値。展示毎に算出し、その平均値とする。	対象:「新収藏品展」「古墳へでかけよう」 ※その他は計測が以前の方法のため対象外。
5	【修正】分館における企画展開催件数	件	12	10	13	18	本館巡回展や企画展のほか、分館の所管部署や指定管理者主体の展示も含む。	本館主体10件、分館主体8件
6	【新規】講座開催件数	件	20	-	-	9	館主催の講演会・講座の回数。ギャラリートーク、出前講座は含まず。連続講座は1回。	展示関連講座3件、連続講座3件、外部講師3件
7	【新規】体験事業満足度	%	95	-	-	99	アンケートでの4段階評価(良・やや良・やや悪・悪)の良・やや良の割合。事業毎に算出し、その平均値とする。	対象:長期休暇の体験館(GW・夏・冬・春)、火おこし、縄文の暮らし、年賀状、味噌、昔の暮らし、古代アクセサリー
8	学校移動博物館(職員派遣型)開催件数	件	6	10	8	10	学校へ博物館職員が出向く形での展示・体験学習の実施件数。	三ヶ日東、河輪、大平台、城北、相生、北浜東、熊、佐久間、雄踏小中ノ町
9	教材貸出件数	件	100	114	101	99	学校等への教材用資料や体験学習用具の貸出件数。	学校移動博物館(貸出型)57件、それ以外の貸出(個別資料、体験道具等)42件
10	各種研修生の延べ受入人数	人	300	211	145	77	博物館実習、インターン、職場体験、教職員研修などの延べ人数。※R3は新型コロナウイルスにより、インターンは中止。	博物館実習60人(10人×6日)、職場体験4人、教職員研修13人 ※学校移動博物館(派遣型)開催時の教職員研修を実施しなかった。
11	【新規】常設展内の資料更新回数	件	4	-	-	2	常設展の部分的な展示更新の回数(期間限定の逸品展示を含む)。	蜷塚遺跡展示内容の更新、伊場遺跡展示内容の更新。
12	【新規】レファレンス対応件数	件	40	-	-	31	来館、メール、電話等による件数合計。	目標値に届かなかったが適切に対応した。

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R1	R2	R3	判断基準	R3説明
1	本館は、市内の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、市内外の人びとが浜松市を理解し、知的好奇心を満たすことができる場である。	必要	-	-	D	・常設展の魅力向上に取り組むとともに、UD化を進めている。	・修正の検討を行ったが、実施には至らなかった。
					B	・計画的な企画展の開催により、収蔵資料を効果的に公開している。	・一部変更となったが、おおむね計画的であった。
					B	・展示や教育普及事業において、デジタル技術を活かした効果的な事業展開を行っている。	・講座のオンライン配信、参加申込のオンライン化、QRコードを用いた展示関連資料のダウンロードなどをR3年度から開始した。
					B	・速報展など時節や市民ニーズに即応した柔軟な事業展開を行っている	・高林家の展示は市美術館の民藝展と時期を合わせ、夏に五輪の展示、発掘速報展を兼ねた古墳の展示など事業展開を工夫した。

2	分館は、各地域の歴史文化について正確でわかりやすい解説が行われており、知的好奇心を満たすことができる場である。	必要	-	-	B	・各地域の特色を生かした常設展示が行われている。	各地の文化財や歴史に関する展示を残しているが、長年更新されず情報が古い面がある。
					B	・各分館の地域の人々や担当者の意見や要望が、企画展示等の事業に反映されている。	各分館の担当者調整して企画展の内容を決定しており、各担当部署や指定管理者が自主事業もやっている。周知の面で課題を残す。
3	(内容変更)学校の学習内容に即した見学・体験のプログラムを行うとともに、授業を支援する教材を提供している。	不要	-	-	A	・主に小学校3年生と6年生の学習内容に合わせた見学・体験プログラムが構成されている。	3年生には昔の道具の体験や展示、6年生には遺跡見学や展示解説などを用意している。
					A	・学校のニーズ等を把握し、見学・体験プログラムの改善に努めている。	学校移動博物館(派遣型)の際に、その地域独自の資料や歴史資源を紹介するなど、歴史を身近に感じられるよう努めている。
					C	・デジタル技術を用いたオンライン上での学習支援を進めている。	動画配信や子供向けウェブページなどの検討を開始している。
4	(新規)市民に学びの場を提供している。	必要	-	-	C	・来館者が理解を深められるような効果的な講座や展示解説等を開催している。	講座や展示解説は、企画展示開催時や学校の長期休暇時が主で、常時は行ってない。
					B	・レファレンスには丁寧に対応し、適切な説明を行っている。	市民のレファレンスや資料閲覧スペースは無いが、丁寧な対応、適切な説明を行った。
5	浜松の歴史や文化を題材とした体験事業を行っている。	必要	-	-	A	・展示や講座等と関連付けた体験学習事業の開催により学習の相乗効果が高められている。	縄文時代の企画展時に縄文時代に関する体験学習を行い、銅鏡づくりやアイロン体験など、常設展と関連付けた体験学習を行っている。
					B	・幅広い層が学びながら楽しめる体験学習プログラムを開発している。	長期休暇を中心に子供・家族連れの参加者が多かった。大人向けプログラムが少ない。

自己評価

分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・観覧者数は、本館・分館ともに新型コロナウイルス感染症拡大による影響から若干持ち直している。 ・常設展のUD化や展示内容の改善を進めているがまだ不十分である。図や解説が少ない、わかりにくいなどの声がある。 ・企画展はほぼ計画通り実施したが、文章が難解、図や解説が少ないなどの声がある。 ・体験学習や学校連携事業は、順調に行うことができているが、多数の参加者に対応するため簡略化している面がある。また、子供・家族連れに偏った構成になりがちである。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式のあり方について、デジタル技術やオンラインを取り入れながら実施する方法を引き続き検討していく。 ・常設展、企画展の改善については、来館者に伝わりやすい内容・方法となるように、アンケートや内部の検証により行っていく。 ・講座や展示解説など来館者と対面する機会を増やして、市民がレファレンスしやすい環境づくりを行う。 ・体験学習は家族連れの誘客のみならず、展示・講座等と関連づけるなど学習効果を高め、大人向けのプログラムなど幅広い層への拡充を検討していく。

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	定性No.4	定性No.5	意見・評価
見直し(要or不要)						
評価(A~D)						

戦略指標4 市民協働

・地域を特徴づける資料収集と保管 ・資料データ化と収蔵資料の充実 ・地域の文化を地域で保管活用

定量的評価

No.	内容	単位	R3 目標値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	考え方・基準	R3内訳等説明
1	地域団体等と連携した事業の実施件数	件	3	2	1	4	自治会や市民団体等との連携による館内・蛸塚公園・伊場公園を利用したイベントなど(連続するものは1件)	映学会・タケノコ掘り(自治会)、昔話の語り聞かせ(市民団体)、コンサート(市民団体)
2	【新規】市民参加型事業の開催件数	件	2	-	-	2	共同調査、意見聴取型WS、協業などの件数	家康伝承調査事業、蛸塚遺跡WS
3	逸品陳列開催件数	件	5	2	0	1	外部の店舗や施設から依頼を受けて出張展示を行った件数	新型コロナウイルスの影響もあり、積極的周知を行わず。
4	出前講座等開催件数	件	10	7	1	8	依頼を受けて講座に出向いた件数	新型コロナウイルスの感染拡大で1件延期するなど影響がみられた。
5	他団体共催事業件数	件	5	5	7	6	展示、講座、イベント等で調査研究は含まない	中日新聞(新聞切抜作品展)、豊橋市自然史博物館(干支展)、文芸大(型紙展示)、大橋幡岩調査PJT(コンサート)、お話つむぎの会(旧高山家住宅で昔話の語り)、市教育研究会(自由研究優秀作品展)
6	ボランティア参加延べ人数	人	1,000	849	492	442	ボランティアの延べ活動人数(研修除く)	講座や体験の補助、学校見学の案内や補助、展示ガイド、和綿づくりなど
7	ボランティア養成事業開催回数	回	6	4	6	8	講座、報告会、実習等の資質向上に関する事業の開催回数	講座7回、報告会1回

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R1	R2	R3	判断基準	R3説明
1	博物館の事業運営をボランティアなど市民協働で推進している。	必要	-	-	B	ボランティアの募集・育成・活動の拡充を進めている	ポスターやHP等で募集し、養成講座で育成し、体験学習の補助や展示ガイド等を行っているが、人材や内容が固定化している。
					B	ボランティアにインセンティブ(講座等事業の優先利用や個別サービス等)や企画提案の場を用意するなど意欲向上の取り組みを進めている	講座や見学会等開催時には運営補助を依頼しながら優先的に参加させている。また随時意見交換等を行っているが、企画提案には至っていない。
					B	シティプロモーションを意識した事業展開を進めている。	市民の関心の高い事業(家康伝承調査等)を市民協働で実施している。

2	(内容変更)博物館の事業が、新たな文化創造や社会の課題解決に寄与している。	必要	-	-	B	市民団体等の活動に対する支援を行っている。	依頼を受けて、観光ガイドの研修講師を務めたり、学習への助言等を実施している。
					C	社会の課題解決に向けた事業展開を図っている。	視覚障害者等の受入れはソフト面では個別対応しているが、ハード面の対応(音声ガイド、ハンズオン)は行われていない。
3	地域との連携が良好な関係性のもとで行われている。	必要	-	-	B	市民団体等に博物館や遺跡でのユニークベニューでの活用を促進している。	自治会のイベントや写真会などに会場を提供している。
					B	地域との連絡・調整体制が築かれている。	自治会長などには必要に応じて連絡を取り、相談している。
4	各分館が地域の特色を示すとともに課題解決の場となっている。	必要	-	-	B	分館の事業に対する感想や要望を把握し、課題の改善に努めている。	直接または分館担当者を通じて地域の意向や要望を汲み取っている。
					B	分館担当者や指定管理者との定期的な連絡・調整の場を設定している。	年に1回担当者会議を行うほか、随時協議して意向を確認しながら決定している。

自己評価

分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・展示解説や体験学習、調査事業など、市民が主体的にボランティア活動や事業に参画する場を設けている。若年層のボランティアも一定数存在するものの、その多くが学生や会社員であることから参画できる日数が限られており、主力層の高齢化が課題となっている。 ・地域のイベントは次第に再開されているが、新型コロナウイルスの影響が残る。 ・出前講座やまちかど逸品陳列も、新型コロナウイルスの影響が残り、依頼数は多くない。 ・各分館では地域に根差した事業が展開されているが、若干の地域差は生じている。
今後の方策	<p>意欲的に活動に取り組むボランティアが増えるよう募集方法等を検討する。また令和4年度に創設される文化財サポーター制度の受入れ等も検討し、活動内容の拡充も視野に入れていく。</p> <p>市民協働事業については、出前講座など、市民の主体的な活動を積極的に支援することで、地域への愛着と誇りの醸成に寄与していく。</p> <p>社会の課題解決に向けて、博物館の役割の一つであることを意識し、各方面との協働を推進していく。</p> <p>地域のイベントについては、博物館事業との連携を図るなど、市民主体の文化創造への寄与を続ける。</p> <p>分館が各地域の課題解決の場となっていくように、引き続き各地域の担当職員や指定管理者との連携を高めながら積極的な事業展開を図っていく。</p>

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	定性No.4	意見・評価
見直し(要or不要)					
評価(A~D)					

戦略指標5 情報の発信と公開

・SNSによる情報発信 ・多言語対応ガイドシステム導入 ・観光訪問者への情報提供

定量的評価

No.	内容	単位	R3 目標値	R1 実績値	R2 実績値	R3 実績値	考え方・基準	R3内訳等説明
1	【修正】SNS更新回数	回	200	-	379	215	ツイッター、インスタグラムの更新回数。各週2回程度の更新目標	ツイッター80件、インスタグラム135件
2	【新規】HPアクセス数	件	200,000	-	-	75,501	博物館HPのトップページアクセス数。広聴広報課で把握。	目標値の半分に満たなかった。トップページ以外からの閲覧数は計測していない。
3	【新規】アップした動画の平均再生回数	回	500	-	-	642	年度内にアップした動画の年度末時点の再生回数の平均値	動画1件「はまはく講座 新発見の浜松城図を読む」
4	報道取り上げ回数	回	200	505	151	84	新聞・ラジオ・TV・雑誌等の取り上げ回数	新聞14回、ラジオ3回、TV9回、雑誌等16回、ネット42回 ※ラジオ定期出演をやめ、ネット媒体への情報提供を厳選したため減少。
5	【修正】刊行物発行部数	部	17,000	-	-	12,900	館で発行する刊行物の部数(ポスター、チラシ、パンフ、カレンダーは含まない)	館報600部、博物館だより2,000部×3回、博物館情報1,050部×6回 ※R3は図録の延期、デジタルスマートシティ推進の取組により減少。

定性的評価 (A達成 Bおおむね達成 Cもう少しで達成 D達成していない)

No.	評価項目	見直し	R1	R2	R3	判断基準	R3説明
1	効果的な情報発信の手段や方法が選択されている。	必要	-	-	A	・過去の実績やアンケート等に基づき、事業の規模や対象に合った情報発信手段(広報誌、ポスター・チラシ、広告、HP、SNS等)を適切に選択している。	子供向け事業の広報は、効果の高いチラシを中心にしており、展示事業はその内容によってチラシの配布先や部数を変えている。速報性の高いものはSNSを使用する。
					C	・收藏品検索システム「ある蔵」の、内容の充実と見やすさの改善に努めている。	見やすさや検索しやすさの向上を検討しているが、実施には至っていない。情報量の増加も実施しているが途上である。
					B	・積極的な報道発表を行い、報道機関を通じた情報発信に努めている。	報道発表を実施したほか、インターネットメディア等にも情報提供を行った。効果的な見出しなどを検討する余地がある。

2	市内外の幅広い層に向けて博物館の周知を行っている。	必要	-	-	C	・展示解説やパンフレットなど多言語化への対応を進めている	常設展の英訳の修正検討を行ったが、修正作業はR4年度に持ち越された。外国語パンフレットは未作成である。
					B	・観光施設や宿泊施設等との連携を深め、博物館の広域的な周知に努めている。	チラシやパンフレットを配架してもらい、一部ではSNSで相互にフォローするなど連携している。
					B	・地域の魅力を紹介することで、地域に対する関心を高めることができたか。	展示関連資料や博物館情報等で地域の歴史資源や資料を紹介した。
3	博物館の多様な所蔵資料や活動内容についての情報を発信している。	必要	-	-	A	・刊行物(博物館報、博物館だより、博物館情報等)が計画通り発行されている。	計画通り発行した。
					B	・HP等における事業の動画や資料、収蔵品の情報などにインターネットを活用した来館できない人向けの情報提供に努めている。	R3年度途中から講座の動画配信を開始した(R3は1本)。また、中央図書館の「浜松文化遺産デジタルアーカイブ」と連携し資料の高精細画像の追加公開の検討を始めた。
					B	・SNSでは事業の開催周知だけでなく、日々の活動状況も公開することで、博物館事業への理解が深められるように努めている。	事業告知だけでなく、学校移動博物館の様子や販売グッズの紹介など、幅広い内容で情報を発信した。

自己評価

分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体(チラシ、ポスター、博物館だよりなど)やネット媒体(ホームページ、SNS)など多様な手段で博物館の情報を発信しているほか、新聞・テレビなど報道機関への掲載などにより情報が公開されている。来館者アンケートの結果からは、来館者の情報源は紙媒体の方が依然として多いが、市のデジタル化・ペーパーレス推進の政策や、学校への紙媒体の配布もデータによる配布に切り替わってきており、今後はオンラインによる情報発信に移行する必要がある。 ・定量的評価5については、上記の点を踏まえると設定を見直す必要がある。 ・公開されている収蔵品検索システム「ある蔵」は検索のしやすさや見やすさの面で課題がある。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展示の開催前に展示資料を段階的に情報発信することで、展示に関する期待を高める。 ・利用が少ない世代や市外の方へ地域の歴史の魅力を伝えられるような、効果的な情報発信をHPやSNSを中心に推進していく。 ・「ある蔵」の改善を進めるとともに、オンラインでの所蔵資料情報発信の効果的な手段について検討していく。 ・報道発表時の「見出し」の工夫など、多くのメディアに取り上げてもらえるような情報発信の手法を検討していく。

博物館協議会からの意見・評価

氏名:	定性No.1	定性No.2	定性No.3	評価・意見
見直し(要or不要)				
評価(A~D)				